

「酒田港大浜海岸における生物多様性(藻場造成)実験」 報告書

令和元年 12 月
酒井鈴木工業株式会社

令和元年度藻場調査内容

第 1 回調査 令和元年 10 月 28 日
現状の確認(藻場の傾きや砂の堆積状況等)

第 2 回調査 令和元年 12 月 25 日
藻の成長確認と貝類の生息状況調査

調査報告

第 1 回調査 10 月 28 日

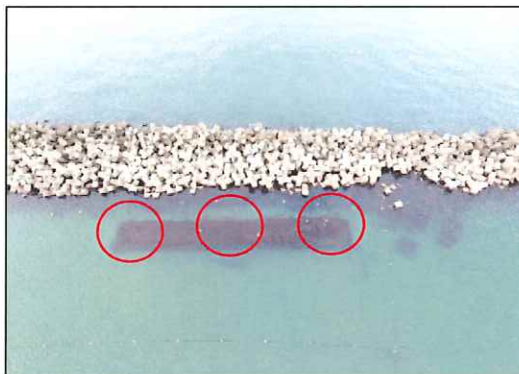
藻場礁の現状確認(沈下や崩落、土砂による埋設)を主とした調査で、藻場礁全体に沈下や傾きは確認されません。

生物については詳細に調査していませんが、全体的に多種類の藻の生育が確認され、今後水温低下とともに生育が一層進むものと思われます

また、貝類の生育も確認できることから、次回の調査で他生物の状況について報告します。

第 2 回調査 12 月 25 日

藻場全景と調査位置



左 中央 右

今回は 10 月期の調査を踏まえ、藻の成長確認と貝類の生息状況を重点に調査しています。
まず、藻場(藻類)については、左側天端部については多年草類の藻場を形成しているが、成長速度は鈍く前回と比較しても急激な成長は確認されませんでした。

中央天端部は 1 年草と多年草類の混生となっており、アカモクは 1.4m に生育しているものの数は少ない状況です。

側面部については、ホンダワラやフシツナギ等の藻類の生育が確認され、天端部より多くの群生が確認できます。

また、生物(貝類)生息調査については、左、中央、右の天端部分の 3 箇所を対象として実施し、5 種 19 個体の生息を確認しています。

生息数平均数は 1 m²あたり 6 個体で、天端全体面積に換算すると相当数の貝類が生息していると推測されます。

特に、アカニシガイやサザエ等は比較的大きい個体が確認されました。

※資料-1 生物調査

また、近年のハタハタの不漁もあり今までに産卵は確認できていませんでしたが、今年の北港水路の状況などから産卵を期待していたところ、藻場左右側面部の藻に卵塊が相当量確認されました。過去にも石鯛の幼魚、サザエ、カキガイ等多くの生物が確認されていましたが、実験5年目にして当初の目的の一つであったハタハタの産卵が確認されたことにより水産資源確保の一助としての可能性が見えたと思われまます。

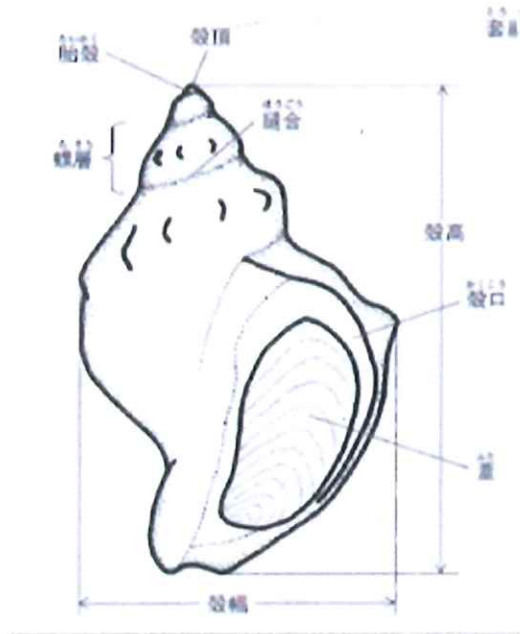
今後藻場の環境整備をさらに進めることでハタハタの産卵場所として定着する可能性も期待できます。

※資料-2 ハタハタ産卵状況

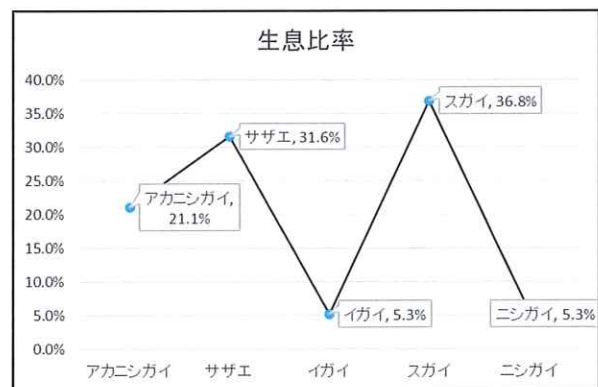
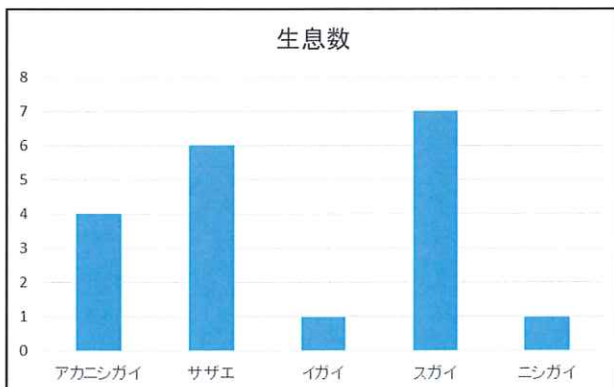
※資料-1 生物調査

殻寸法測定表

測定箇所	貝の名称	個体数	殻幅mm	殻高mm
左側天端	アカニシガイ	3	56.0	78.5
			71.3	96.8
			73.1	87.3
	イガイ	1	-	-
スガイ	2	-	-	
中央天端	サザエ	2	77.1	92.5
	アカニシガイ	1	64.5	69.1
	ニシガイ	1	75.6	97.7
	スガイ	1	-	-
右側天端	サザエ	4	64.3	71.6
			64.6	70.3
			59.3	68.9
			40.2	62.0
	スガイ	4	-	-



名 称	生息数			計
	左側	中央部	右側	
アカニシガイ	3	1		4
サザエ		2	4	6
イガイ	1			1
スガイ	2	1	4	7
ニシガイ		1		1
累計生息数				19



生息数調査は左、中央、右側の3箇所(1箇所あたり1㎡)で行った。

結果、3箇所の貝類の合計生息数は5種19個体で、全生息数に占める個体毎の生息比率はスガイが36.8%と最も多く次いでサザエの31.6%、アカニシガイの21.1%と、この3種類で全体の90%を占めた。

藻場の天端部分は平面部で約124㎡あり、今回の調査から1㎡当たりの貝類の生息数は平均6個体で、全面積に換算すると約744個体が生息していると推測される。

※資料-2 ハタハタ産卵状況

